

患者さんへ

「とうこつえんいたん 橈骨遠位端関節内骨折に対する 3 次元的分類の研究」について

1. はじめに

臨床研究とはより良い診断や治療のために医学的なデータを得るさまざまな研究のことを言います。今回の研究は、日常診療のなかで医師が自主的に有効性、安全性などを把握するために行う研究です。

2. この研究について

■ 目的：橈骨遠位端骨折を受傷された方の CT データから骨折の形態を 3 次元的に解析することにより詳細な骨折型を分類し、手術時に骨折を整復する方向、プレート設置位置を決定する指標とし、また手術後の手の機能評価、レントゲン画像の評価を行うことにより骨折型ごとの治療成績を明らかにすることで将来の治療方法の向上に役立てることを目的とします。

■ 方法：対象は 20 歳以上の橈骨遠位端骨折を受傷された患者さんです。診療時に撮影した CT データを個人情報を匿名化したうえで大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学（整形外科）講座に提出します。そこで、橈骨、尺骨の 3 次元コンピューター骨モデルを作成し、骨折線、骨片の転位の方向を、3 次元シミュレーションを行うコンピュータープログラムを用いて解析します。また手術後の手の機能評価（痛み、可動域、日常生活動作など）、レントゲン画像評価を骨折型ごとに解析することで、骨折型ごとの治療成績と、特に注意すべき骨折型を明らかにし、より良い治療計画について詳細に検討します。

* 橈骨遠位端骨折とは、転んで手をついたときに多く見られる骨折で、手首の付け根のところの骨が折れてしまうことをいいます。

■ 研究予定期間：2014 年 8 月から 2019 年 3 月まで

■ 研究組織：大阪大学整形外科が主体となり、星ヶ丘医療センター整形外科、箕面市立病院整形外科で研究を実施します。 <http://www.osaka-orthopaedics.jp/959/961/8022.html>

3. プライバシーの保護

この研究結果は学会や医学雑誌などに発表する予定ですが、個人が特定できないように配慮し、あなたのお名前や住所などが明らかになるようなことはありません。

4. 研究への参加について

この研究は日常診療のなかでおこなうものであり、橈骨遠位端骨折を受傷された患者さんが対象になっております。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、遠慮なく担当医師にお伝えください。たとえお断りになっても今後の治療において不利益を受けることはありません。

5. 担当医師への連絡

この研究について、心配なことや、わからないことがあれば、いつでも遠慮なく担当医師に申し出てください。

担当診療科： 星ヶ丘医療センター 整形外科

担当医師名： 難波 二郎、片岡 利行、安井 行彦

連絡先電話番号： 072-840-2641

